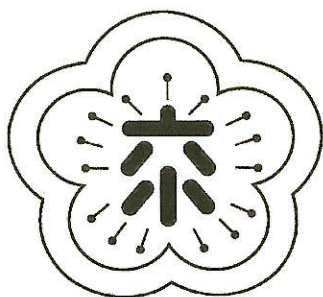


チーム担任制に関わる実践事例集



白石町立六角小学校

目次

1. 研究計画の概要
2. 各チームの実践報告
3. 成果と課題
4. チーム担任制についてのQ & A

1. 研究計画の概要



六角小学校マスコット
ちゃやの



六角小学校マスコット
ころく

研究計画の概要

1 研究主題名

ウェルビーイングな学校づくりを実現する教育課程の編成
～小規模校におけるチーム担任制・教科担任制を通して～

2 研究主題設定の趣旨

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」など先行き不透明で予測困難な時代が到来し、現在は、「VUCA」の時代とも言われ、社会は大きく変化してきている。このような社会において、現行の学習指導要領では、児童一人一人が自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要であると述べられている。

そのような資質・能力を身に付けるために、中央教育審議会の答申『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」で示されたことが、多様で幅広い業務を自己完結的に抱える「個業」型の業務遂行から、他の教師や支援スタッフ等と分担し「協働」していくことへのシフトチェンジの徹底による「チーム学校」の実現である。これまでのように、学級担任を一人に固定するのではなく、複数の教職員がチームとなり、それぞれの強みを生かして児童に関わることができれば、児童にとっても教職員にとってもより一層の教育の充実を図ることができると考える。そこで、本研究では、全学年単学級である小規模校におけるチーム担任制・教科担任制の有効性を検証していくことにする。

3 研究組織

研究主題の具現化を図るため図1で示すように、研究推進委員会による計画・立案を基に、全教職員による効果的な研究推進を行っていくことができるようにする。

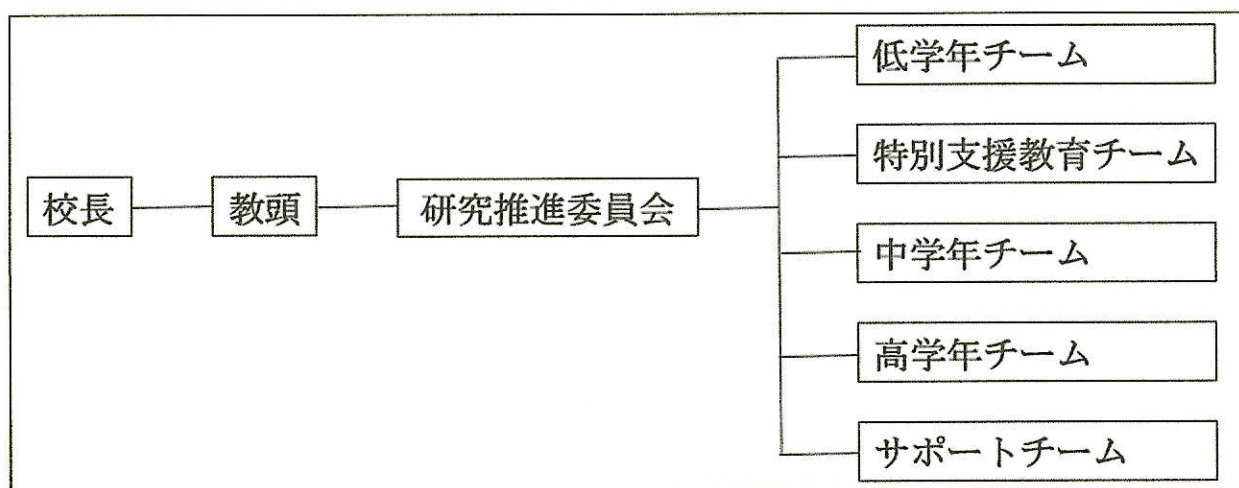


図1 研究組織図

なお校内における、かしこく部・やさしく部・たくましく部の3部会との連携を図りながら研究を進めていくことができるように、各チームの代表は3部会の部長を兼務することとする。

4 研究内容

(1) チーム担任制・教科担任制における教育課程の編成

令和7年度は、低・中学年においては学級担任制とし、高学年において5年1組と6年1組の2学級の学級運営を、3人の教員が1週間から1ヵ月程度で交代しながら行う(表1)。学級担任は、朝の会、給食、掃除、帰りの会の指導と休み時間の児童対応を行う。学級を担任しない週は、副担任として、欠席児童の確認や宿題の丸付け、学年の事務処理など担任のサポートを行う。また、教科指導においては表2で示すように「教科担任制」を取り入れ、教員一人一人の専門性に応じて担当教科を分担する。道徳と学活においては、その週の担任が行うこととする。

表1 学級担任分担表

	a週	b週	c週
5年	教師A	教師C	教師B
6年	教師B	教師A	教師C
副担任	教師C	教師B	教師A

表2 担当教科分担表

	担当教科
教師A	国語5年、社会6年、算数5年、音楽5・6年、家庭科5・6年、道徳、学活
教師B	社会5年、算数6年、理科6年、体育5・6年、総合6年、道徳、学活
教師C	国語6年、理科5年、図工5・6年、総合5年、道徳、学活

※外国語は専科教員が担当している。

低・中学年においても合同授業や交換授業を行い、児童の発達段階に応じたチーム担任制の在り方を探っていくこととする。

(2) 講師招聘による継続的かつ発展的な校内研修

チーム担任制の導入と推進に向けて、教職員の理解を深め、共通認識をもちながら、実践的なスキルを習得するために、年間を通じて、講師による継続的な研修を実施する。

(3) 先進校視察による効果的なチーム運営の理解

先進校の組織的な体制と連携の在り方から、具体的な実践事例を学び、教職員間で共有化を図り、自校での実践として取り入れる。

(4) 児童・教職員の意識調査

チーム担任制の導入及び実践の成果と課題を把握し、今後の具体的な方策を検証し、改善策を見出すために、児童・教職員への意識調査を行う。また、必要に応じて、保護者への意識調査も行う。

(5) 実践事例集(研究収録)の作成

各チーム及び学校全体での実践を取りまとめ、次年度へ繋ぐための資料として実践事例集(研究収録)を作成し取りまとめる。

5 期待される成果

(1) 児童への効果

- ・多くの教職員が関わることで、児童は複数の教職員に学習面や生活面における相談をすることができる。
- ・複数の教職員との関わりを通して、コミュニケーション能力や社会性を身に付けることができる。

(2) 教職員への効果

- ・一人での学年運営に関する不安や負担感を軽減することができる。
- ・チーム内の教職員同士がそれぞれの専門性や得意なことを生かして指導できる。

(3) 学校全体への効果

- ・教職員間のコミュニケーションが増加し、組織的に教育活動を展開することができる。

2. 各チームの実践報告



各チームで今年度主に取り組んだことは表3の通りである。

表3 各チームの主な取組

	低学年チーム	中学年チーム	高学年チーム	特別支援教育チーム	サポートチーム
4月～7月	- 生活科で2年生が校舎内を案内する。2年生は案内したい場所の紹介を事前に準備し、案内する。1年生は行った場所で見つけた物を絵や言葉で書く活動を実施。 - 合同授業の実施 →水泳は2人で指導 →出張等で1人が不在のときも対応できる	3年生の児童数が少ないため、給食当番を2学年一緒に実施 - 出張のときに合同で体育を実施 - 水泳を3・4年合同で行った。 - トラブルが起きた際に児童が違う学年の先生を呼びにきた →「チームの先生だから!!」	2週間ごとに担任を交代 - 教科担任制の実施 →道徳、学活はその週の担任が実施。外国語は専科教員。 - 毎週金曜日の放課後にチーム会議の実施 →児童に関する情報の共有、授業の相談、行事の確認等 - 担任ボードの作成 →高学年チーム以外の先生に、誰が担任か分かるようになった	1組～3組の児童全員で集まって活動した →みんなおだやかな表情で活動することができていた	- 週一回の企画会 - 支援体制についてスクールサポートの方と相談 - 高学年担任3人に、5・6年のことは、報告や相談、情報共有
9月～10月	- 修学旅行では、2年生の児童をリーダーとし、2学年で合同班をつくって活動 - 昼休みに1、2年生で遊ぶ姿がよく見られるようになった 2年生の生活科「おもちゃの国へようこそ」に1年生を招待する。	3、4年生で150周年記念式典について話し合う - 修学旅行、運動会に向けて2学年で話し合い、取り組んだ	- 教師机を教室の後方に移動 →授業者ではないときも児童の様子を把握できる 6年体育の授業者を変更 - 高学年通信を発行 →細々とした情報の共有	2組の児童が1組に入っ て一緒に活動 →垣根がなくなってきた いる	職員の意識調査の作成 ・できるだけの学年にもサポートに入れるように、情報共有に心がけた
11月～12月	- 佐賀農業高校へ動物ふれあい体験へ行く。1・2年合同班で実施。 150周年記念式典の低学年発表を合同で実施。 1年生の生活科「秋のおもちゃで遊ぼう」に2年生を招待する。 - 生活科「さつまいもでおやつづくり」1・2年合同班で実施。 - 火曜日以外の下校は、昇降口前に集合して、1・2年集団下校（通年）	150周年記念式典のオープニングとエンディングの出し物、飾りつけの準備や練習を行い、本番も2学年でがんばって発表できた。 - たてわりの赤白に分かれて、水やりをしている。	150周年記念式典の内容について5、6年生一緒に話し合う - 各学年の行事（出前授業等）の主担当者を明確化 →連絡調整をスムーズに	いもほりやいやいもの調理を合同で行い、協力して楽しく活動できていた。 →相互理解が少しずつ深まってきたっており、得意なことでも苦手なことも認め合っていて過さずことができている。	集会練習時間割をチームで計画したことで、時間にとりがででき、体育館の使用時間が確保できたり、学年別や合同での活動等役割や内容による場所の活用の工夫ができていたりした

低学年チーム実践報告

1 主な取組について

【通年】

- ・下校時は昇降口前に下校班で整列し、集団下校を行った。(月・水・木・金に実施)

【生活科】

- ・4月：1年「学校を歩いてみよう」、2年「1年生をむかえよう」では、2年生が校舎内を案内するという目的をもち、案内したい場所をどう紹介するか準備を行い、説明をしたり、1年生の書く活動をサポートしたりしながら、一緒に活動した。
- ・9月：2年「おもちゃの国へようこそ」では、1年生を招待し、12月：1年「秋のおもちで遊ぼう」では、2年生を招待することで、お互いの学習を知ることができた。
- ・12月：1・2年合同で、畑で収穫したサツマイモを使って、おやつ作りを楽しんだ。



【行事】

- ・10月：修学旅行・ふれあい体験2年生をリーダーとした班を編成し協力して活動した。
- ・10月：運動会、11月：150周年記念式典：「白石みのりちゃん」のダンスを披露。



2 成果(○)と課題(●)について

○2年生は下級生のお世話をする事や手本になることなどを意識することで、低学年のリーダーとして意識を高めることができた。

○一緒に活動することを継続していくことで、昼休みなどにも一緒にドッジボールや遊具遊びなどをする姿が増えてきた。

○1年生と2年生で20名と少人数だったので、どちらかのクラスに集まっての活動もスムーズにできた。

○年度末の「がんばったね集会」は「いっしょにしたい」という声が児童から出て、活動の一部を合同で行うことができた。一緒にしようという気持ちが高まってきていることが伺える。

●一学期は、1年生が学校に慣れることを優先し、生活科の学校案内や体育の水遊びの学習など、無理のない範囲で合同授業を始めた。次年度は修学旅行が一学期であるので、一緒に活動する時期をもっと早く行うことになると思う。

- ・3年生の児童数が少ないため、給食当番に4年生が手伝いに行くようにした。(図2)
- ・11月の花いっぱい運動の後から、プランターの水やりを縦割りの赤白に分かれて担当するようにした。

- ・担任が出張のため不在の時に合同で体育を行った。ドッジボールを一緒に行った。
- ・水泳の授業を同じ時間に行うようにして、大人の目を増やした。

- ・運動会の中学年の出し物「面浮立」を縦割り班ごとに4年生から3年生へ教えた。(図3)
- ・修学旅行の班行動を、縦割り班にした。事前指導を行う際にも縦割り班ごとに集まって話をした。バスの座席や宇宙科学館での見学順など、班ごとに話し合わせた。(図4)
- ・学校創立150周年記念式典に向けて、チーム会議を行い、オープニング・エンディング・飾りつけなど、どんなことをしたいか話し合った。内容が決まってから、3・4年合同でグループを作り、準備や練習を行った。本番では、内容によって各学年でした所もあったが、全体的には2学年で発表を行った。(図5)
- ・6年生ありがとう集会も、チーム会議を行い、ステージ発表の内容を話し合った。合奏は学年ごとにした。劇の大枠は学年で分けてしたが、人数が足りない場合や一緒にやりたい所では学年の垣根を越えて参加した。

牛乳	おぼん↓セルフ	おぼん↓セルフ	3年生の食器(ご飯)手伝い↓セルフ	3年生の食器(皿)手伝い↓セルフ	牛乳のふくろ・チエック	台の準備・片付け(3・4年)↓セルフ	台の準備・片付け(3・4年)↓セルフ
18	19	20	21	22	23	1	2
い	ち	白	緑	山	警	山	井

図2 4年給食当番表の一部



図3 面浮立練習風景



図4 修学旅行班行動



図5 チーム会議

- 4年生にとっては、3年生の手伝いをしたり、教えたりすることで、上級生としての自覚をもつことができた。
- 3年生にとっては、大勢でした方が楽しいドッジボールや、普段できない班活動をする事ができて、経験値が上がった。
- 給食当番や集会を協力することで、人数に差があっても子どもたちの力で活動することができた。
- 朝の会や帰りの会、道德の時間に担任が入れ替わって行うことも考えられたが、取り組むことができなかった。

高学年チーム実践報告

1 主な取組について

- ・年度当初に2学年合同でのチーム開きを行い、その週の担任ではなくても、誰にでも相談してもよいことや、いろいろな先生から学べることのメリットなど、チーム担任制の進め方について児童に説明を行った。また、必要に応じてチームでの集会を行うことで、5、6年生の全児童と共通理解を図ることができた。



- ・4月は初任者以外の2人で学級担任を行い、初任者には副担任として各学級に関わってもらったが、その後は2週間ごとに担任をローテーションしていった。学級担任をする週は、朝の会、給食、掃除、帰りの会の指導と休み時間の児童対応を行った。また、学級を担任しない週は、副担任として、欠席児童の確認や宿題の丸付け、学年の事務処理など担任のサポートを行った。
- ・教科指導においては表4で示すように「教科担任制」を取り入れ、教員一人一人の専門性に応じて担当教科を分担した。音楽、家庭科、体育、図工については一人で2学年分担当することで、教材研究の時間を削減できるようにした。

表4 担当教科分担表

	担当教科
教師A	国語5年、社会6年、算数5年、音楽5・6年、家庭科5・6年、道徳、学活
教師B	社会5年、算数6年、理科6年、体育5・(6年)、総合6年、道徳、学活
教師C	国語6年、理科5年、図工5・6年、総合5年、(体育6年)、道徳、学活

※道徳、学活はその週の担任が担当し、外国語は専科教員が担当した。

※6年の体育については、初任者の授業の経験を増やすために後期から井上先生が担当した。

- ・毎週金曜日の放課後にチーム会議を行い、児童に関する情報の共有、授業の相談、行事の確認等を行った。また、金曜日以外でも必要に応じて放課後に情報共有を行った。
- ・高学年通信を発行することで細々とした情報も共有し、教育相談の担当や通知表所見の作成の担当も明確にした。

2 成果(○)と課題(●)について

- 教科担任制にしたことで担当する教科の数が減り、教材研究の時間が増えたため授業の専門性を高めることにつながった。
- 誰が担当するのか曖昧になりがちな業務も、担当者を明確にすることで責任をもって対応することができた。
- 空き時間を有効に活用することが難しく、放課後に行うチーム会議を勤務時間内に行うことが難しかった。
- 初任者にとって1年間担当しない教科があることは、来年度その教科を初めて担当する際の不安にもつながっている。
- 保護者にとっては、「3人の担任のうち誰に相談してもよい」ということが「誰に相談すればよいか分からない」ということにつながっていた。

特別支援教育チーム実践報告

1 主な取組について

- ・特別支援学級の児童全員で集まって活動したり、クラスを越えて必要に応じたメンバーの小集団で活動したりした。

5月…1年生歓迎&誕生日会食

特別支援学級に入級した1年生の歓迎会と4月と5月の誕生会を給食の時間に集まって会食することで実施した。普段、各学級では張り詰めた表情だったり、緊張した面持ちが多かったりするような児童も、穏やかな表情で活動することができていた。



6月…いもの苗さし

張り切って芋の苗を何本もさしたり、草むしりを始めた児童に気づき、その輪が広がったりと、温かい和やかな時間を過ごすことができた。

11月・12月…いもほり・いもの調理

3クラス合同で行い、協力して楽しく活動できていた。相互理解が少しずつ深まってきており、得意なことも苦手なことも認め合って過ごすことができていた。



2月…感謝の品を作って贈ろう

発達段階や個人の力に応じた作業に取り組み、分業で作品を完成させていった。個人の成長、他の友だちへの配慮などが見られた。学級の垣根がなくなっている。

2 成果(○)と課題(●)について

- 新しい環境に慣れるのに時間がかかったり苦手意識があったりする特別支援学級の児童が、交流学級担任に加え特別支援学級担任3人とも信頼関係を築くことができたなら、学校生活の安心感がより高まっていくと考える。その一助として、全特別支援学級在籍児童とその担任が活動できたことがよかった。
- 児童が様々なことを体験する場が、特別支援学級→交流学級という小集団→大集団であったが、その間に特別支援学級全体という中集団での体験活動を行うことで、よりスモールステップで集団での活動を学ぶことができたのがよかった。
- 全学年にまたがって児童が在籍しているため、時間確保が難しい。年度当初に週に1時間は合わせられるように時間割を組むなどの工夫が必要だと感じる。

サポートチーム実践報告

1 主な取組について

(1) チーム担任制推進委員会開催及び研修

- ・ チーム担任制導入に向けての理論研究・講師招聘（兵庫教育大 川上教授）による研修会を実施した。また、統一した指導の必要性もあり、希望消耗品調査及び購入を行った。
- ・ 県教育委員会への実施計画書・実施報告書の作成及び出張。先進校視察研修実施。

(2) チーム担任制説明会（保護者、学校運営協議会）

学校運営協議会委員と保護者に対して、チーム担任制導入の説明会を実施した。内容は、以下のとおりである。

- ① 導入の理由及び背景、②導入の目的、③今後の予定、④チーム担任制の方法と期待される効果
(導入については、理解を得ることができた)

(3) チーム担任制説明会（全校児童）

一学期始業式で、校長が児童に、分かりやすく説明した。（以下、説明の一部抜粋）

1. 「チーム担任制」になると、皆さんには、いろいろな良いことがあります。
2. 相談できる先生が増えます。困ったことや分からないことがあったとき、いつでも頼れる先生がいます。
3. いろいろな先生と関われます。授業や朝の時間など、いろいろな場面で、いろいろな先生と関わることができます。
4. 先生方が、みんなで応援してくれます。運動会や発表会などの学校行事で、チームの先生方が協力して、皆さんを応援し、成功に導いてくれます。



(4) チーム会議参加（高学年チームへ）

初任者研修指導のために、ほぼ毎日、関わるすることができた。（管理職・初任研 CO・級外職員）

(5) 児童及び職員のサポート事例

- ・ 授業中の学習サポート ・ 行事サポート及びゲストティーチャーとの連携
- ・ 朝の時間や昼休み時間の対応 ・ 放課後支援（自宅訪問等）
- ・ 各々の場面での支援 ・ 困り感をもつ児童の対応 ・ 保護者対応支援
- ・ 児童の居場所づくり ・ 環境整備（整理整頓） ・ 振興会渉外

2 成果（○）と課題（●）について

- 児童及び職員に対してのサポートができた。
- サポートの仕方については、共通理解が必要。担任の思いを尊重したサポートに徹することが大切である。児童に関わり過ぎないようにしていく必要がある。

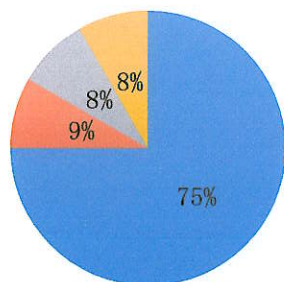
3. 成果と課題



児童の意識調査より（上段・中段：前期末、下段：後期末）

1 年生（12人）

いろいろな先生が関わりながら過ごすことについて4月にどう思っていましたか。



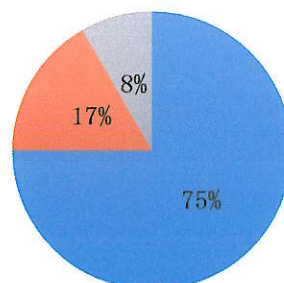
- とても楽しみ
- まあまあ楽しみ
- これまでと変わらない
- ちょっと不安
- かなり不安

主な理由

○いろいろな先生に会えて嬉しい

●違う先生だとよく分からない

前期を終えていろいろな先生が関わりながら過ごすことについてどう思っていますか。



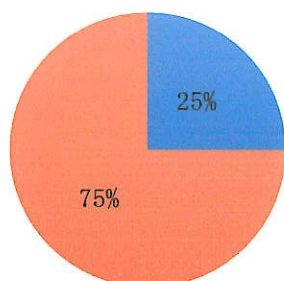
- よい
- どちらかといえばよい
- どちらともいえない
- どちらかといえばよくない
- よくない

主な理由

○いろいろな先生が教えてくれたから

○楽しいから

後期を終えていろいろな先生が関わりながら過ごすことについてどう思っていますか。



- よい
- どちらかといえばよい
- どちらともいえない
- どちらかといえばよくない
- よくない

主な理由

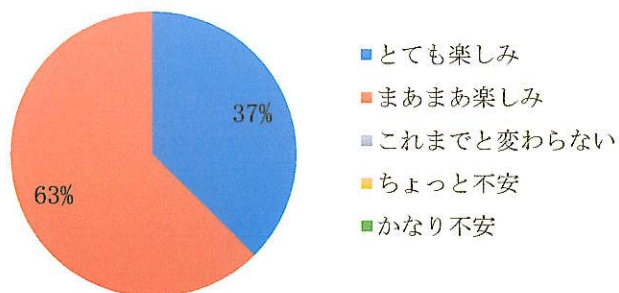
○たくさん先生がいてくれると嬉しい

○困っているときに助けてくれる

○菊次先生が出張のときも安心できる

2 年生（8 人）

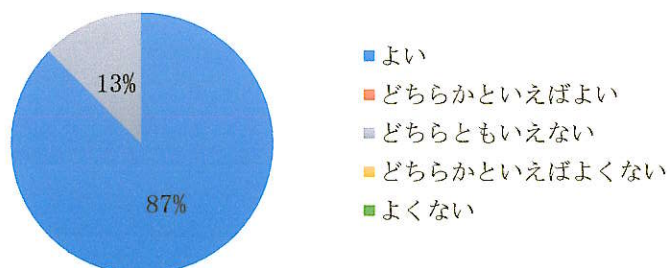
いろいろな先生が関わりながら過ごすことについて4月にどう思っていましたか。



主な理由

- 不安でもいろいろな先生がいて、先生の顔が優しそうだったから。
- 先生はたくさんいた方がいい

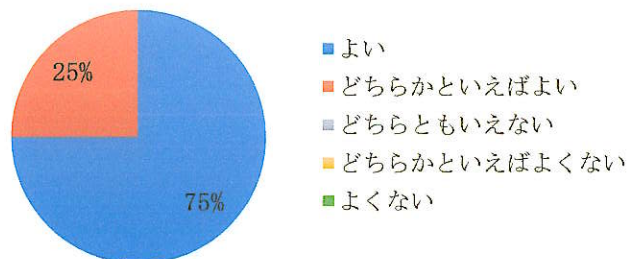
前期を終えていろいろな先生が関わりながら過ごすことについてどう思っていますか。



主な理由

- いろいろな先生と話せるようになった
- いろんな先生と仲良くなれた

後期を終えていろいろな先生が関わりながら過ごすことについてどう思っていますか。

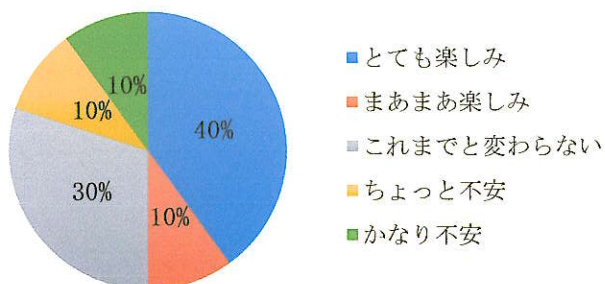


主な理由

- 困ったときに助けてもらえた
- いろいろな先生と勉強ができていい

3 年生 (11人)

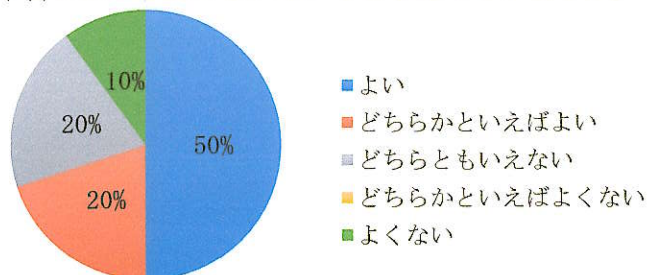
いろいろな先生がかわりながら授業をしたり、他の学年の先生と一緒に学習したりすることについて4月にどう思っていましたか。



主な理由

- 先生みんなと遊べるならいいと思った
- 変わることが不安・心配

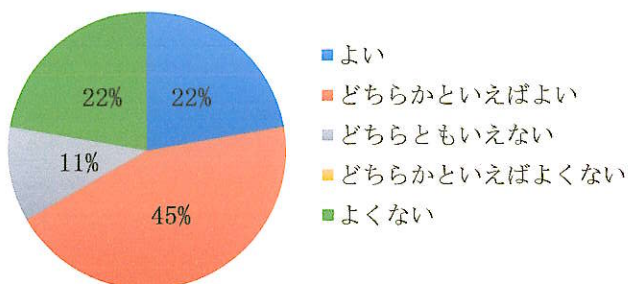
前期を終えていろいろな先生がかわりながら授業をしたり、他の学年の先生と一緒に学習したりすることについてどう思っていますか。



主な理由

- 合同授業だといっぱい意見が出る
- 合同授業だとたくさん人がいて、挙手しても当たらないときがある

後期を終えていろいろな先生がかわりながら授業をしたり、他の学年の先生と一緒に学習したりすることについてどう思っていますか。

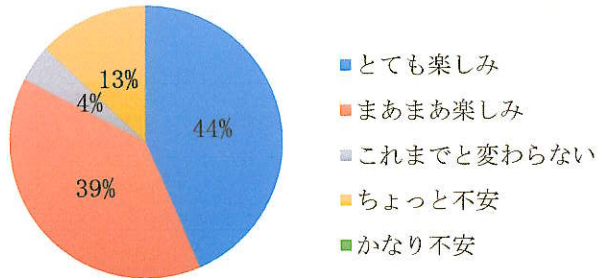


主な理由

- いつもより楽しい
- 先生がかわると慣れない
- 担任の先生の方が話しやすい

4 年生 (23人)

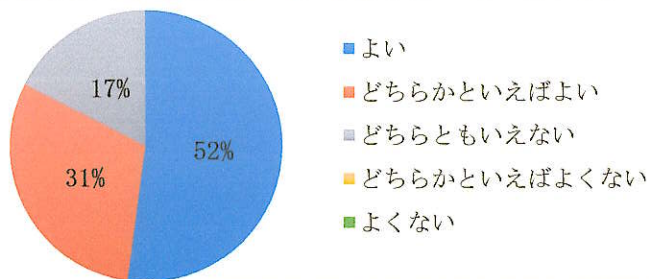
いろいろな先生がかわりながら授業をしたり、他の学年の先生と一緒に学習したりすることについて4月にどう思っていましたか。



主な理由

- 早くやってみたいと思った
- どんな風になるか楽しみだった
- どんな風にするのかちょっと不安だった

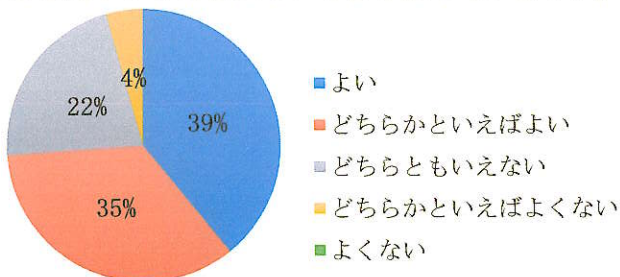
前期を終えていろいろな先生がかわりながら授業をしたり、他の学年の先生と一緒に学習したりすることについてどう思っていますか。



主な理由

- いろいろな先生と授業をするのが楽しい
- いろいろな先生のこと知れるからいい
- 今の方がとても楽しいから
- 他の先生や学年とできて普通より楽しくできた

後期を終えていろいろな先生がかわりながら授業をしたり、他の学年の先生と一緒に学習したりすることについてどう思っていますか。

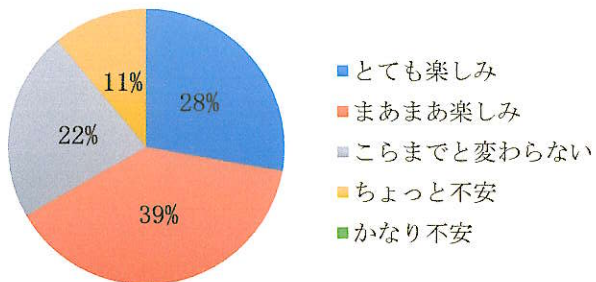


主な理由

- 授業が分かりやすくなった
- 一人一人違う教え方でいい
- 違う学年と仲が深まったり、協力したりできた

5 年生（18人）

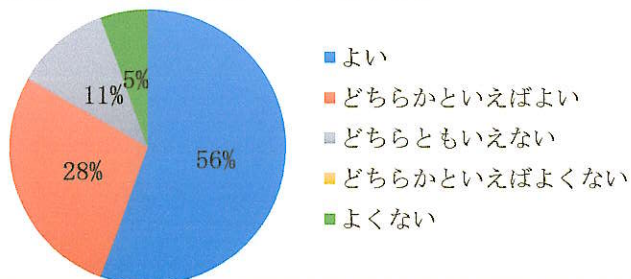
いろいろな先生がかわりながら授業をしたり、担任がかわったりすることについて
4月にどう思っていましたか。



主な理由

- 先生がかわることにわくわくしたから
- いろいろな先生と関わることが楽しみだったから
- 先生たちとうまくコミュニケーションがとれるか不安だったから

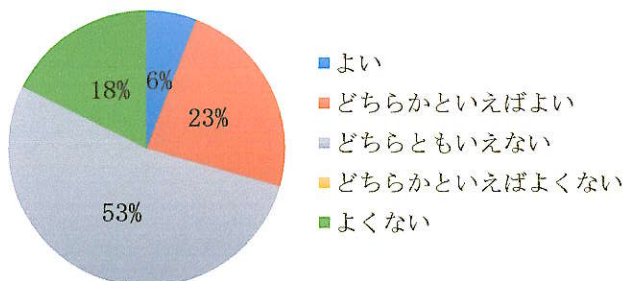
前期を終えていろいろな先生がかわりながら授業をしたり、担任がかわったりすることについてどう思っていますか。



主な理由

- いろいろな先生の授業がとても楽しいから
- いろいろな先生と話ができて楽しい
- いろいろな先生に相談できるから
- 先生がかわることが嫌だから

後期を終えていろいろな先生がかわりながら授業をしたり、担任がかわったりすることについてどう思っていますか。

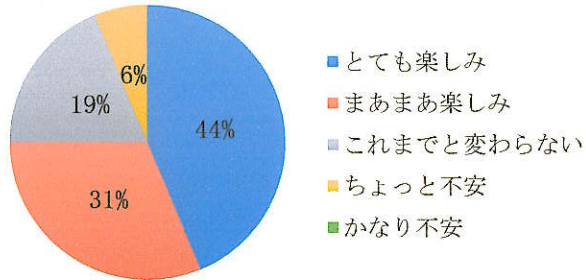


主な理由

- いろいろなことを相談できる
 - ・変わることがあまりなかった
- 一人の担任の先生の方が分かりやすい

6 年生（17人）

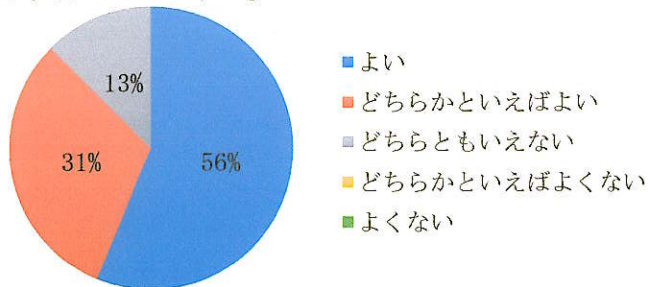
いろいろな先生が変わりながら授業をしたり、担任がかわったりすることについて
4月にどう思っていましたか。



主な理由

- 新しい感覚で、とても面白そう
- 相談する人が増えたり、授業が分かったりするかも
- どの先生に相談すればいいか不安に思った

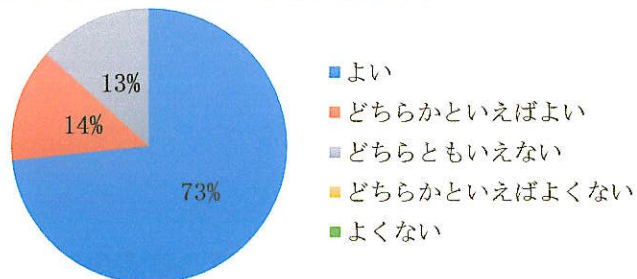
前期を終えていろいろな先生が授業をしたり、担任がかわったりすることについて
どう思っていますか。



主な理由

- いろいろな先生と会話できるから
- 悩み事があるときに相談できる先生が増えてよかった
- たまに戸惑うことがあった

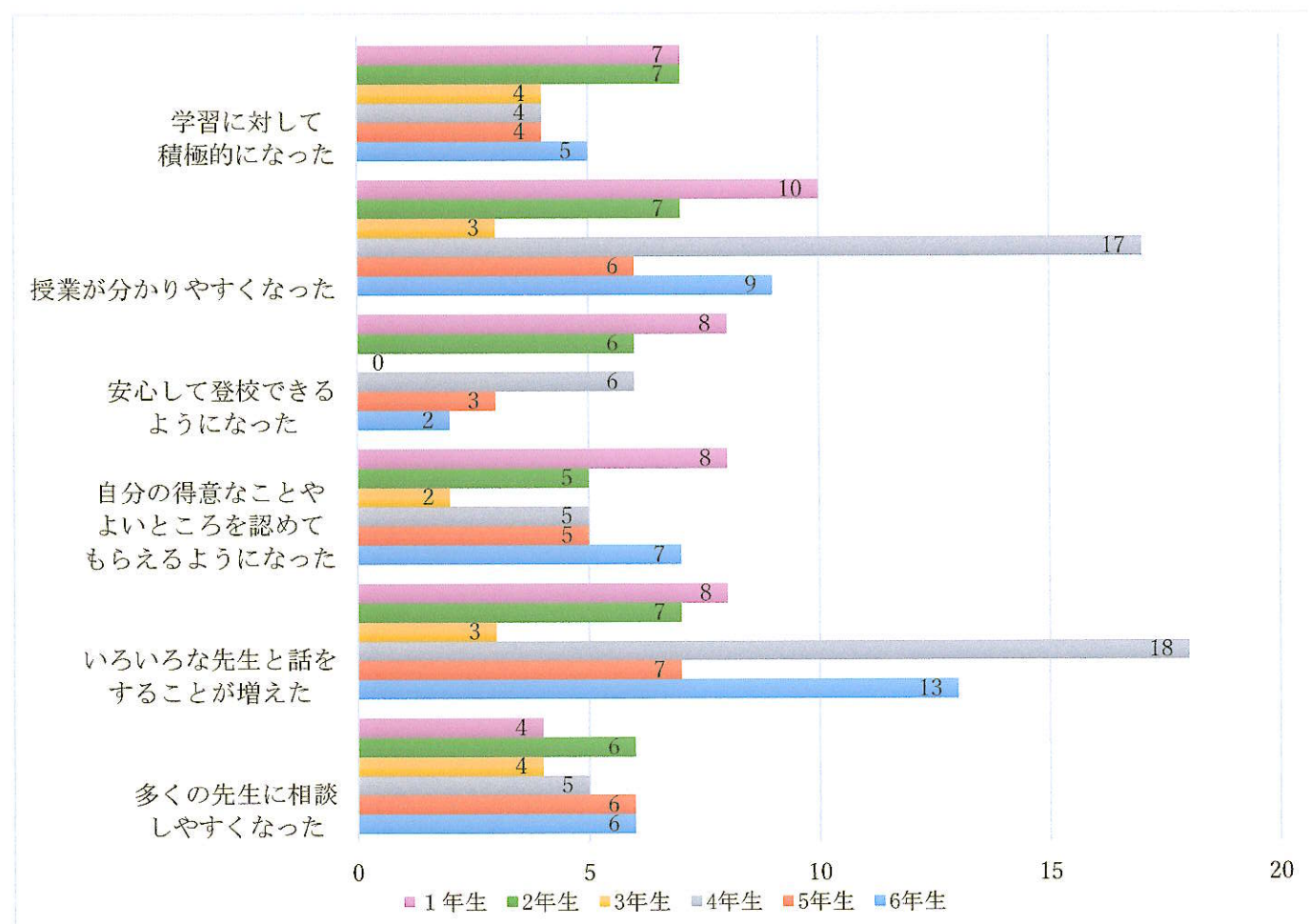
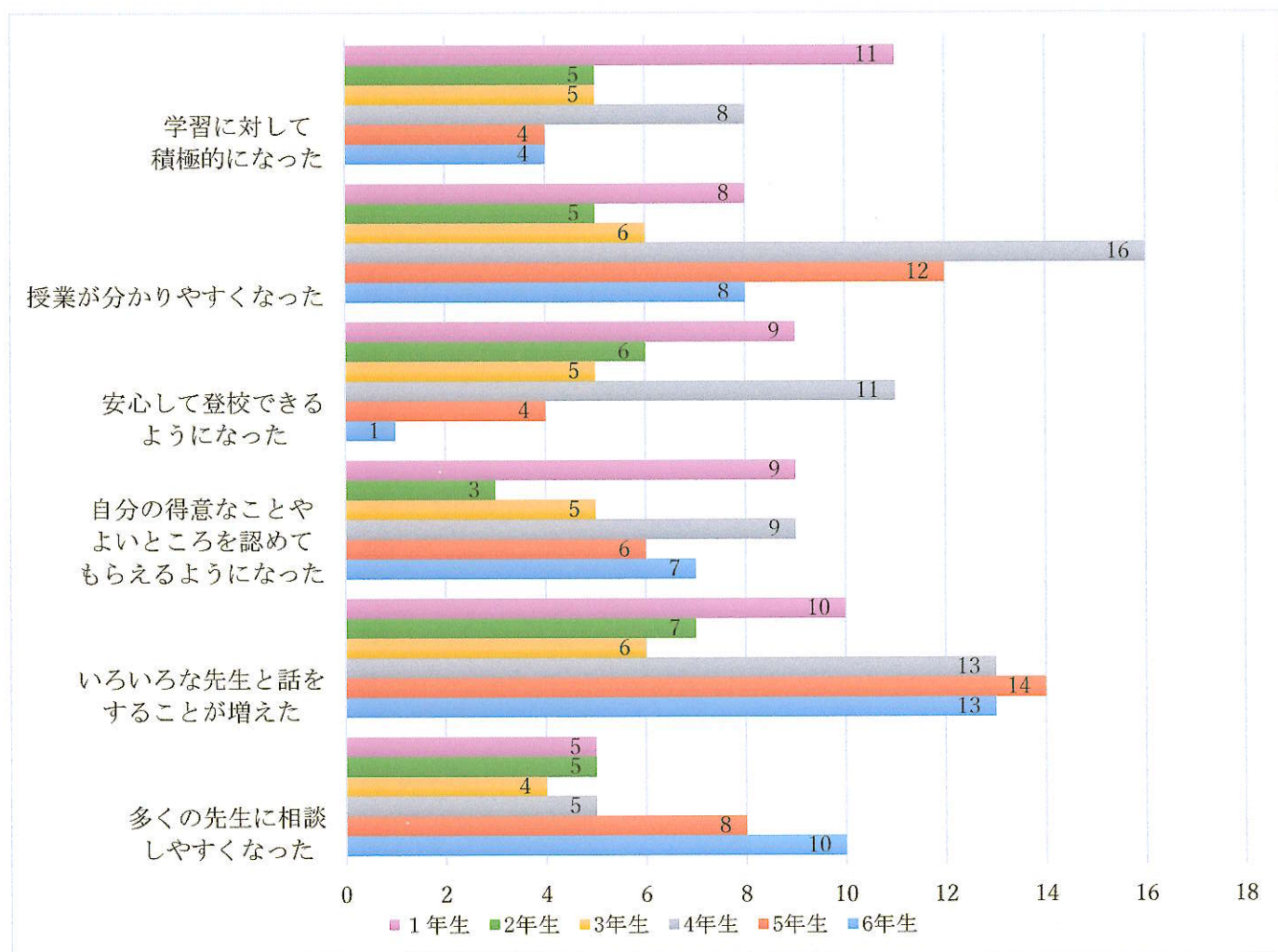
後期を終えていろいろな先生が変わりながら授業をしたり、担任がかわったりすることについてどう思っていますか。



主な理由

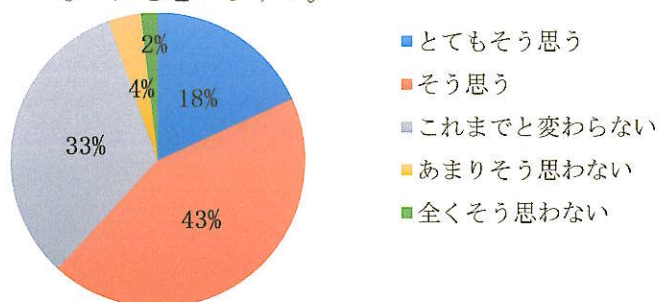
- 話しやすい先生にすぐ話せる
- 3人いるから問題があったときも早く解決できる

○チーム担任制でどんなことがよくなったと思いますか。(複数回答可) 上段：前期末、下段：後期末

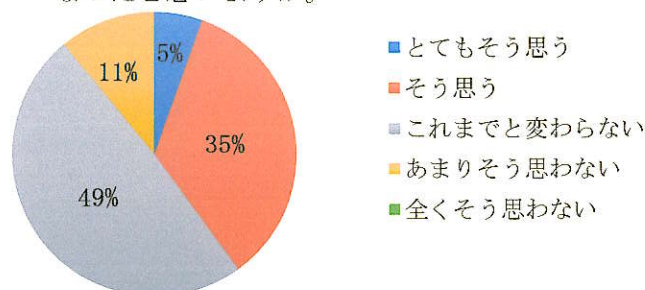


保護者の意識調査より（n = 55）

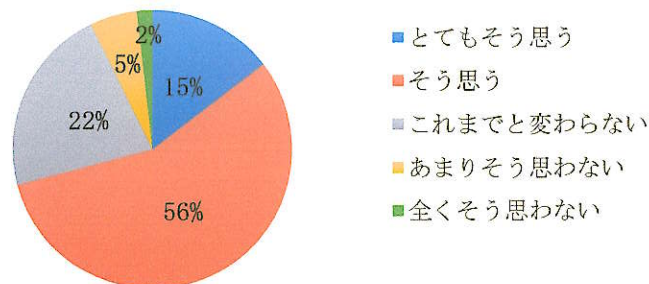
- 1 「チーム担任制」になったことで、子どもたちがいろいろな先生と関わりやすくなったと思いますか。



- 2 「チーム担任制」になったことで、子どもたちが先生に相談しやすくなったと思いますか。



- 3 「チーム担任制」は、子どもたちが成長できるよい取組だと思いますか。



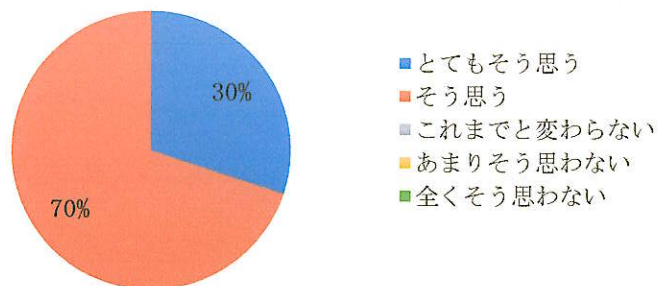
上記の質問項目については、肯定的な意見は4割～7割程であった。子どもが学校で先生たちとどう関わっているのか、相談できているのかということが保護者の方からは見えにくかったのではないかと考えられる。一方、否定的な回答をしている保護者の方も少ないため、子どもたちが先生に相談できずに困っていると感じている保護者の方も少ないと言える。3つ目の質問項目を見ると、「チーム担任制」という取組自体に対して否定的な意見をもたれている方は3%（1名）のため、右記の課題を改善できれば来年度も保護者の方の理解や協力を得ながら進められるのではないかと考えられる。

4 「チーム担任制」について、感想やご意見等があれば、お書きください。

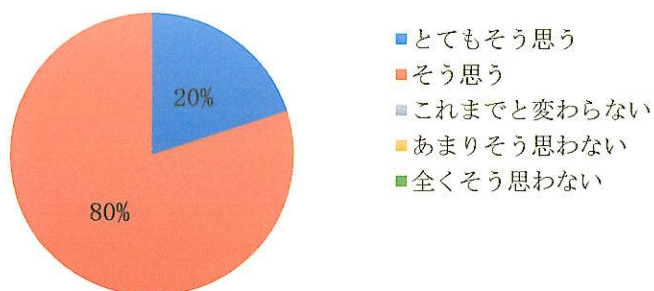
- ・あまり学校のことを話さないで詳しくはわかりませんが、先生によって相談できることの違いもあると思うのでその点は良さそうだと思います。
- ・関われる先生が増えて良いように感じています。いつもありがとうございます。
- ・生徒にも先生にもいろんな選択肢が広がり、また負担も軽減されるのであれば、賛成。今後は、ローテーションの期間や、男女の比率、取り組み分担など、再検討余地はあり。ただ、保護者が担任と、関わる機会がかなり減り、すべての担任と関われないために、それ以上の判断ができない。異学年授業など、課題もあるが、新しい取り組みは、ぜひ、今後も生かすべき。少子化も含め。
- ・例えば一つの案件で（〇〇先生はAというが〇〇先生はBという）と言ったなど、やり方が違う場合はかえってコロコロ担任が変わると子どもも戸惑うのかなと思いました。でも、チーム担任制にしていくならば、男性と女性の先生がいた方が、男の子の気持ちや女の子の気持ちを組みとりやすいのかなとメリットはあるかなと思いました。高学年になると、女の子は早い子は生理が始まったりしますし、そういうナイーブなことは1年間男性の担任一人よりも女性の先生がいるといいので、チーム担任制でもいいかなと、思います。
- ・新たな取り組みで良いと思います。学級通信で次の週の担任をお知らせされますが、急に学校に伺った時などは、どの先生が現在担任か把握できていないことがあります。
- ・情報は共有されてると思うが、電話で急いでる時など、どの先生に子供のことをお伝えしたらいいのか分かりにくい。先生たちの負担は減るんじゃないかなとは思いますが。子供によっては、週替わりで先生が代わって新鮮な気持ちで色々取り組めたのかなとも思いました。
- ・先生との相性が悪かった時に、今までの一人で担任する方法だと一年を棒に振ることがあったと思いますが、チーム担任制では相性の悪さの影響を極小にできる点は良いと思います。逆にいうと、相性が良い先生からの良い影響を享受できる機会が減るとも言えるので、チーム担任制になったから良かったね！ということでもないと思います。
- ・チーム担任制のメリット、デメリットはあると思います。でも、子どもたちにとっても、働かれる先生方にとっても良い方向に進んでいけたらいいなと願っています。
- ・お便りに今回はどの先生とお知らせがありますが顔が覚えきれないです。（私が顔を覚えるのが苦手なので同じ担任の方だと何とか覚えれたのですが）
- ・相談事をどの担任の先生に話していいか分からなかった。やっぱり1人の担任の先生がいいと思う。
- ・どういう意図があって、チーム担任制になっているのか分かりません。それをするのであれば、教科担任制の方が良い。
- ・一年生なので、今までとの違いなど分かりません。また、先生との関わりを参観日以外で見るものがあまりないので回答に困りました。
- ・全体を通してチーム担任制がどのように行われていたのか（内容や関わり方など）を保護者は直接見ておらず、子供との会話や学校だより等では判断材料が少ないのであまり分かりません。この制度自体が良かったのか、改善点があるのかも分からないというのが正直な感想です。
- ・兄弟がいると誰がどの先生か分からなくなりました。

教職員の意識調査より（n = 10）

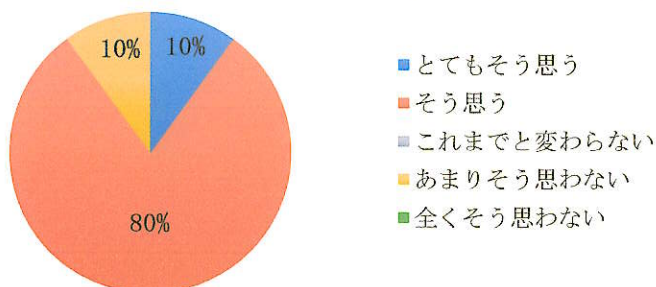
- 1 「チーム担任制」になったことで、子どもたちがいろいろな先生と関わりやすくなったと思いますか。



- 2 「チーム担任制」になったことで、子どもたちが先生に相談しやすくなったと思いますか。



- 3 「チーム担任制」は、子どもたちが成長できるよい取組だと思いますか。



- 4 「チーム担任制」について、感想やご意見等があれば、お書きください。

- ・「チーム担任制」ということを意識することで、職員のほうが、担任している単学年以外の児童にも心がけて声をかけること、支援をしようとする機会を増やしていくことで成り立つ体制だと思います。その意識をいかにもっていくかが肝なのではないかと感じています。
- ・担任感が薄まることで、問題行動等の対応にしてもチームで対応することが当たり前になってくることがよい点だと思う。ただ、それが、他人任せにならないように常に自分事としてしっかりと意識をもって教育活動に取り組むなど、教職員の意識を高く保つ点が大切だと思う。
- ・先生方それぞれの思いをどれくらい折り合いをつけて学級経営に発揮していくか、話し合いなどは、こまめに必要だと感じる。意識して合同での取り組み（行事等）・授業を組んでいけたことは良かったと思う。
- ・成果や効果をまとめていきながら、川上先生が言われる『協働』を機能させることについては話題にしていく必要があると思う。
- ・初任者として、周囲に頼りやすく、助言をいただきやすいので、ありがたく思っています。また、児童間のトラブルなど役割分担をして対応がしやすい点も効果的だと思います。

研究成果及び課題

「2. 各チームの実践報告」で示した取組以外にも、全学年でチーム担任制を進めていくにあたり、先進校視察や講師を招いた研修を通して、他校の事例を収集し、本校の実践として取り入れてきた。

児童への意識調査から、4月にはチーム担任制に対する児童の期待値は高かったものの、不安を抱いていた児童もいたことが明確になった。しかし、前期末の段階では、複数の教員による関わりに対して肯定的に回答する児童の割合が増えており、不安傾向にあった児童の気持ちを和らげることができた。一方、後期末に行った児童の意識調査からは、年間を通して一人の担任と過ごしていきたいという思いをもつ児童がいることが明らかになった。

保護者への意識調査からは、高学年の学級に男性と女性の教員が担任として関わることに對して、児童が相談しやすくなると肯定的な意見が挙げられていた。一方、保護者への意識調査の中で挙げられた課題で大部分を占めていたのが、「相談事を誰に話せばいいか分からなかった」というものであった。担任が変わる度にお便りでお知らせをしていたものの、2週間ごとに変わるため常に把握しておくのは難しかったようである。来年度は、相談事の対応をする教員を学年ごとに決めておき、年間を通じて同じ教員が対応する等の改善が必要である。

佐賀県においては、チームに初任者を所属させることになっているが、今年度高学年チームに所属し、2週間ごとに5年担任・6年担任・高学年副担任を経験した初任者からは、「周りの教員から助言をもらいやすく、児童のトラブルに対してもチームで分担ができ、対応しやすい」と肯定的な意見が挙げられていた。一方で、教科担任制によって担当教科を分担していたため、初任者にとって1年間担当しない教科があることは、来年度その教科を初めて担当する際の不安につながっていることが分かった。

4. チーム担任制についてのQ & A



Q 1 チーム担任制を始めるにあたり、どのような準備が必要ですか。

A 1 前年度の2月に校内でチーム担任制推進委員会を開催したり、オンラインによる職員研修の時間を設定し、兵庫教育大学の川上先生からチーム担任制の実施方法や成果・課題についてご指導いただいたりし、教員の中で共通理解を図っていきました。保護者や学校運営協議会委員の方に対しては、チーム担任制説明会を実施し、導入の背景や期待される効果等について説明を行いました。

Q 2 時間割はどのように作成しますか。

A 2 まずは、他校に籍を置く専科教員（本校の場合は外国語担当）が来校する曜日を確認しながら、特別支援学級が国語や算数等の時間を決めます。その後、教科担任制を行う5・6年生において、各教員の専門性に応じて担当する教科を決め、2学級で授業者が重ならないように配置していきます。その際、週によって時数が変わる教科には特に注意が必要です。時間割を組む時に、3人の担任全員が授業を持たない時間を週に1～2時間設定することができると、情報共有の時間として活用できます。

Q 3 懇談会はどのように行いますか。

A 3 年度始めの懇談会は希望面談で全家庭と行うわけではなかったため、時間的に余裕があり、担任3人で希望された保護者の方全員と懇談会を行うことができました。夏季休業中に行った個人懇談会は、3人で分担して行いました。出張が入り多少の入れ替えは行いましたが、基本的には教育相談を行った児童の保護者と個人懇談会を実施しました。

Q 4 卒業式の呼名は誰がしますか。

A 4 特別支援学級の担任も合わせて4人で呼名をしました。分担する際は、名簿順で4等分しました。

Q 5 通知表を作成するときはどのように分担しますか。

A 5 「教科」については担当者が評価し（総合的な学習の時間の所見も含む）、「行動の記録」についてはチームで検討しました。「総合所見」「道徳」については、名簿順で分担するのではなく、児童の頑張りやいいところを記録しておくようにし、その姿を見つけた教員が担当するようにしました。通知表と指導要録の担任欄には、3人の担任の名前を連名で記入しました。

Q 6 情報共有はいつ行いますか。

A 6 3人の担任全員が授業を持たない時間がとれなかったため、毎週金曜日の放課後に情報共有のためのチーム会議を行いました。その他にも、気になることがあった際には適宜放課後に3人で相談をする時間を設定しました。また、主任が高学年通信を発行し、細々とした情報も共有できるようにしました。